



はたと困った、どうしよう

人は、「どうしよう」と思うことがいろいろあります。学習で、学校で、子どもたちが困っていたら・・・



黒板の字を正しく書き写せない。
細かい作業が苦手だ。
整理整頓が難しい。
皮肉や冗談がわかりにくい。
約束やルールが守れない。
集中できる時間が短い。
音読がスムーズにできない。
繰り上がりや繰り下がり計算ミスが多い。
個別の指示は理解できるが、集団の中では理解しにくい。など

このような子どもたちの「困り」や「サイン」に気づいていますか。
これらは子どもたちが「頑張っているのにできない」または「することが難しい」ことです。
決して、単なる怠けや反抗ではありません。

学校での取り組み

【支援の例】

- 注意書きやマーク、色チョーク使用などで注目させる。
- 子どもの状況、学習内容に合わせて、カードなどを組み替えて提示する。
- 何を、どんな順番で、どう取り組み、どこで終わるのかなど、はっきり伝える。
- イラストや写真、視聴覚教材などを有効に使う。
- 「ポイント」「静かに」などのイラストカードを提示する
- 指示は、必要なときに、その場で、短く、具体的に、わかりやすく。
- 1文1動詞の話をする。「1つ目は～します。2つ目は～します。」
- 声の大きさ、抑揚、スピード、間など話し方を工夫する。
- できたことはしっかり評価する。（ほめる。） などなど

これらを
「ユニバーサルデザイン」
と言います。

どうでしょうか。これらの支援は困っている子どもには【ないと困る支援】ですが、どの子にも【あると便利な支援】です。そして、これらの支援は支援教育でよく用いられます。そうです。特別な支援を必要とする子どもへの支援はすべての子どもにとって有効な支援です。本校でも、支援学級（すぎのこ）や通常学級でユニバーサルデザインを活用した指導に努めています。ご家庭でお子様が学習等で困っていると思われるときは担任を通じてご相談ください。また、学校からお子様の学習の様子をお伝えし保護者とともに今後の指導について考えていきたいと思います。子どもたちが意欲をもって学校生活を送れるよう最善の策を講じたいと思います。「ユニバーサルデザイン」の活用と支援教育にご理解ください。